

サバ(コタキナバル)調査案内

山本博之

サバ州コタキナバルを中心に、(1)調査許可と調査ビザ、(2)調査許可を申請する場合のカウンターパートとなりうる現地調査機関、(3)図書室・資料室、(4)その他についてまとめた。

1. 調査許可と調査ビザ

(1)調査許可の必要性

サバでは、外国人研究者が無許可で調査活動を行い、動植物のサンプルを国外に無許可で持ち出そうとして大きな問題になったこともあり、調査許可に対する社会の目は厳しくなっている。

図書室・資料室の利用については、調査許可が必要なところとそうでないところがある。調査許可が必要な場合でも、申請書の写し等で調査許可を申請中であることを示せば利用できることもある。調査許可なしで突然訪れても1日程度なら資料を見せてくれることがあるが、無許可で利用を求めた人物として利用者名などがEPUに届けられていることは知っておくべきだろう。

(2)調査許可

調査許可は、連邦政府の EPU を窓口として申請する方法と、サバ州の EPU を通じて申請する方法の 2 つがある。(連邦 EPU への具体的な申請手順については前号の関連記事を参照。) いずれの場合でも申請書が州 EPU にまわり、州 EPU が諾否を判断して、連邦 EPU の承認を得

た上で結果が申請者に伝えられる。

連邦 EPU を窓口とすると時間が余計にかかる。州 EPU に申請した場合には調査許可の範囲がサバに限られるため、例えば KL に行ったときに国立文書館の利用が認められないことがある。

州 EPU の申請先・問合せ先は以下の通り。

Unit Perancang Ekonomi Negeri Sabah,
Tingkat 6 & 8, Blok B, Wisma MUIS,
Beg Berkunci No.2041,
88999 Kota Kinabalu, Sabah.

(3)調査ビザ

市内カンボン・アイルにある移民局で手続きを行う。(i)必要書類の入手、(ii)申請、(iii)受理、(iv)交付、の4つの順に進む。(i)~(iii)はうまくいけば1日で済む。(iii)と(iv)の間は数日かかる。その間、パスポートは預けたままになる。

(i)必要な書類は移民局ビル1階の入り口脇で売られている。どの書類が何枚必要かは申請内容によって異なる。

(ii)申請には調査許可のほかにサバ州内のカウンターパート(身元保証人)からの受け入れ承諾書が必要になる。

(iii)申請時、受付係に書類一式を渡し、簡単な確認を受けて整理番号をもらい、番号が呼ばれるのを待つ。混み具合によってはかなり長く待たされる。番号が呼ばれ、担当官が申請内容を

確認する。不備がなければ受理され、交付予定日が告げられる。

(iv)手数料等は受け取りのときに支払う。受け取りにはほとんど時間がかからない。

**Bahagian Unit Pas dan Visa,
Pejabat Imigresen Negeri Sabah,
Tkt 6, Bangunan Wisma Dang Bandung,
Jalan Tuanku Abdul Rahman,
88550 Kota Kinabalu, Sabah.**

2. 現地調査機関

(1) サバ開発問題研究所 (IDS)

カラムンシン・コンプレックスの7階。1980年代半ばに設立された州政府のシンクタンク。*Borneo Review*(年2回)のほか、各種の研究書を発行している。政治経済社会など多くの研究部からなり、かつては各研究部が州政府の政策の多くをカバーしていた。

1990年代半ば以降、連邦政府による州行政の「方向付け」が強まるとIDSの重要性が低下し、所員の多くは政府機関やサバ大学などの各研究機関に移った。

研究部には小さな資料室があり、1980年代半ば以来のサバに関する新聞記事の分野別切り抜きと、IDSがこれまでに開催したセミナーのペーパーがある。いずれも頼めばコピーをとってくれるが、やや高い。また、資料室の利用資格が厳しくなり、IDSが正規に受け入れた研究員に限られた。(ただし、所長に面会して調査内容などを話し、口頭で許可をもらえば利用できる。)

**Institute for Development Studies (IDS),
7th Floor, Block C,
Kompleks Karamunsing,
88300 Kota Kinabalu, Sabah.
<http://www.ids.org.my/index.htm>**

(2) サバ大学 (UMS)

マレーシア国民大学(UKM)のサバ校を母体として1994年に設立された。自然科学を中心に多くの学部・センターがあり、日本人の研究者や専門家も何人か所属している。人文・社会科学では教養・言語センター(PPIB)と社会科学学部があり、それぞれジャーナルやモノグラフを発行している。

キャンパスはリカス地区にあり、町から遠い。バスは大学前を通るものと大学内に入るものがある。キャンパスはとても広いので、大学前でバスを降りてキャンパス内を歩くのはあまり勧められない。

**Universiti Malaysia Sabah,
Beg Berkunci No.2073,
88999 Kota Kinabalu, Sabah.
<http://www.ums.edu.my/>**

(3) サバ州立博物館(Muzium Sabah)

サバ州内でも研究機関として歴史が古く、自然科学・人文科学を中心に多数の研究員を擁する。ジャーナルやモノグラフを発行している。

館内には図書室があり、民族誌などの文献資料があるが、一般には公開されていない。

Muzium Sabah,

Beg Berkunci 2015,
88566 Kota Kinabalu, Sabah.
<http://www.mzm.sabah.gov.my/>

3. 図書館・資料室

(1) 州立図書館(Perpustakaan Negeri Sabah)

市の中心部にある 2 階建ての建物。空港方面に向かったところに本部ビルが建てられ、これによって州立図書館はコタキナバル市分館となった。分館の 2 階には新聞のマイクロフィルムや地図資料を含むサバ関係資料(ウーリー・コレクション)があったが、いずれも本部ビルに移され、分館にはサバ関係の専門書が少なくなった。

利用に調査許可は必要ない。分館 1 階の図書はパスポートなどを示して登録手続きをすれば館外に借り出すことができる。

州立図書館コタキナバル市分館
Perpustakaan Bandaraya Kota Kinabalu
Beg Berkunci No.2023,
88999 Kota Kinabalu, Sabah.
州立図書館本部ビル
Perpustakaan Ibu Pejabat dan Pusat
Maklumat,
Jalan Tasik, Off Jalan Maktab Gaya,
88300 Luyang, Kota Kinabalu, Sabah.
<http://www.ssl.sabah.gov.my/>

(2) 州立文書館(Arkib Negeri Sabah)

プナンパン通り沿い。州立博物館を越えてしばらく進むと左手にある。

北ボルネオ会社時代の文書、写真、地図などの資料が所蔵されている。閲覧室には各種カタログだけ置かれていて、それをもとに窓口で申し込んで資料を出してもらう。資料は閲覧室でのみ利用可能で、館外持ち出しはできない。頼めばコピーしてくれるが少々高い。

窓口で応対してくれるスタッフは経験が長く、調査内容を話すと関係ありそうな文献をいろいろと教えてくれる。ただし、現在の館長になって管理が強化されて利用しにくくなった。

初回訪問時、登録申請書に所属先や調査目的などを書いて登録する。調査許可が必要。

Arkib Negeri Sabah,
Km.4, Jalan Penampang,
Beg Berkunci No.2017,
88999 Kota Kinabalu, Sabah.

(3) フアド・ステファン記念ボルネオ調査図書室(Borneo Research Library)

サバ関連書籍、新聞記事切り抜き、サバの各種団体のパンフレット等がある。

ヤヤサン・サバ内にあり、市内からはやや遠く、アクセスも悪い。バスはあるが、ヤヤサン・サバの敷地に入るバスは少ないため、ヤヤサン・サバから町に出るには敷地外の大通りまで数百メートル歩かなければならない。

調査許可は必要ないが、利用には身分を証明するものが必要。

Tun Haji Mohd. Stephens Borneo Research
Library,

Menara Tun Mustapha,
88813 Kota Kinabalu, Sabah.
<http://www.ysnet.org.my/library.htm>

4. その他

(1) サバ・ソサエティ (The Sabah Society)

サバの自然、歴史、文化に関する在野のサークル。 *Sabah Society Journal* を毎年発行し、各種のモノグラフも発行している。内外から講師を招いて月に一度程度の講演会を開催しており、サバ社会で人脈を作るのに役立つ。講演会は会員でなくても参加できる。

The Sabah Society,
No.46, Block E, Damai Plaza, Phase 4,
Luyang,
88806 Kota Kinabalu, Sabah.
<http://www.sabahsociety.com/>

(2) 文化協会、会館など

カダザンドゥスン文化協会 (KDCA) とカダザンドゥスン言語協会 (KLF) は、いずれもプナンパン通りに沿って位置している。フィールド中心なので文献資料はあまりない。所長や事務局長は研究所にいない日もあるので、訪問するときは事前に連絡した方がよい。

カダザンドゥスン文化協会
Kadazan Dusun Cultural Association,
Hongkod Koisaan,
Km. 7, Jala Penampang,
89509 Penampang, Sabah.

<http://www.kdca.org.my/>
カダザンドゥスン言語協会
Kadazandusun Language Foundation,
Lot 1&2, Block A, New World Commercial
Centre, Off Jalan Penampang,
89507 Penampang, Sabah.
<http://www.klf.com.my/>

中国系の会館は、古くからあるものはコタキナバル市内のガヤ街付近に集まっており、町を歩いているといくつも見つけることができる。1980年代にサラワクから移ってきた福州人はコラム通り沿いに大きな会館を建てている。いずれの会館も文献資料を多く蓄積していると想像されるが、部外者にはアクセスが難しい。

(3) 書店

コタキナバル市内でサバに関係する専門書を扱っているのは、ウスマ・ムルデカ内の1階にある岩瀬書店とボルネオ・ブックス、州立博物館の購買部、コタキナバル空港の売店。同じ本でも店によってかなり値段が違う。

DBP の支局がリカス地区にあり、書籍部ではDBP 発行の書籍が購入できる (ヤヤサン・サバと同じ地区にあり、町からは遠い)。市内カンポン・アイルのセドコ・コンプレックスにある DBP の代理店でも DBP 発行の書籍が買えるが、品揃えはあまりよくない。

市内センターポイントの5階に大衆書局がオープンし、コタキナバルでも華語の新刊書籍が購入できるようになった。